

三菱キャンター4WD 2トン垂直アルミフラットバン 494万円

この度、就労移行支援事業所「ワークセンターフレンド」は日本財団から送迎用トラックを助成頂きました。とても感謝しています。

直しても、直しても・・・修繕箇所が出て、就労支援事業会計を圧迫していましたが、パリパリの新車になり、皆さん張り切って配達に出かけています。リフトも整備されていて集配業務がとても効率的に出来るようになりました。ありがとうございました。

灯油価格はこのところ少し穏やかな変化で助かっていますが、一方で不況でホテルリネン関係の洗濯物が減っています。世の中うまくいきません。

そんな中で、新しい車が来ました。大きな後押しを頂き、元気が出ます。新年度を迎え、一層頑張ります。



財団法人JKAより助成金をいただきました。

この度、多機能型事業所L.C.C.ういんぐは財団法人JKAの福祉車両整備補助事業により、送迎用10人乗りワゴン車を購入させていただきました。

10人乗りワゴン車の購入により、8人乗りワゴン車ではかなえられなかった送迎希望が多数ある地域の方への送迎がすべて可能となり、利用者の皆様に喜んで送迎サービスを利用していただいております。また、送迎サービスだけでなく行事などのレクリエーション活動においても、これまでと比べより多くの方が乗車でき、また、広い車内で快適に過ごしていただけます。

購入させていただいた10人乗りワゴン車は安全な車両管理に努め、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



千鳥福祉会サマーフェスタ 2010

●今年の夏祭りは7月18日(日)です。

千鳥福祉会のサマーフェスタは今年で9回目になりました。今年もスタッフ一同張り切っています。昨年は大雨の中を「ホーランエンヤ」でオープニングを飾らせていただきましたが、今年もホーランエンヤの準備をしています。衣装もボランテアさんのお力を借りて準備中です。



楽しみにしてお出かけください。

苦情解決について

■平成21年度苦情受付・解決への取り組み報告

- ケアセンター大空
 - ・移動支援利用中の喫煙について（ご利用者様から）
 - ・利用者本人所有の携帯電話の利用制限設定など、解除手続きについて（ご家族様から）
 - ・移動支援利用後の自宅送迎について（ご家族様から）
- L.C.C.ういんぐ
 - ・ご自宅への送迎ミスについて（ご家族様から）
- 持田寮
 - ・服薬等を含む医療的ケアに関わる施設の取り扱いについて（ご家族様から）
 - ・新事業体系への移行、障害程度区分による利用要件などについて（ご家族様から）
 - ・受傷の際の家族への報告について（ご家族様から）
 - ・公的郵便物の家庭への転送手続きの遅滞について（ご家族様から）

・利用者の無断外出、近隣宅への訪問及び物品の無断拝借について（近隣の方から）

■苦情受付窓口担当職員の変更について

平成22年度より、利用者の方やご家族から、今まで以上に苦情や要望をいただきやすいように苦情受付窓口の職員を現場の身近な職員へと変更しました。

申し立てについては、苦情受付窓口に限りません。全職員がお話をお伺いしますので、お気づきの点があればお気軽にご相談下さい。

- 持田寮 三浦 圭司
- L.C.C.ういんぐ 永岡 悟
- ワークセンターフレンド 中林 美香
- ケアセンター大空 松原さやか
- 共同生活・援助事業所 溝畑 美鈴

Leaving Care News

-No.112-

〒690-0814 松江東持田町1415
 社会福祉法人千鳥福祉会
 代表(TEL 24-8820 FAX 24-8825)
 URL http://www9.ocn.ne.jp/~chidori/
 E-mail chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp
 障害者支援施設 持田寮
 就労移行支援事業所 ワークセンターフレンド
 多機能型事業所 L.C.C.ういんぐ
 共同生活援助・介護事業所
 千鳥福祉会ケアセンター大空

2009.4.15

「平成22年4月1日 オープン 障がい者相談支援事業」

相談支援事業コーディネーター（ケアセンター大空管理者）竹内 淳子

私も一年生です。

何かが始まりそうなこの季節。今年で8年目を迎える居宅介護事業所「ケアセンター大空」に新たな相談窓口が出来ました。主な相談・支援内容は次の通りです。

- (1) 障がい福祉サービスの利用等に関する相談
- (2) 障がいや病状の理解・不安解消に関する相談
- (3) 健康・医療に関する相談
- (4) 家族関係・人間関係の調整に関する相談
- (5) 年金、各種手当、生活保護制度、権利擁護制度への手続きにかかる支援
- (6) 就労に関する相談

- (7) 社会参加・余暇活動にかかる支援
- (8) 日常生活等に関する相談
- (9) その他

これまで「どうしたらよいかわからない・・・」とあきらめていた問題点を「ご本人やご家族と一緒に考える」お手伝いを竹内が致します。各関係機関との連携を図り、地域の方々のご協力を得ながら動きの良さ

フットワークOK! あく動きまーあ?!?!

を目指した窓口になれるよう頑張りますので
よろしくお願ひします。

電話番号 0852-24-8807

～ケアセンター大空ニュース～

平常心って大変です

2年ぶりの氷川きよしコンサート。県民会館ロビーでソファーにMさんと座っていました。開催時間となりましたが、Mさんは更に深く座り込み、「私、いいわ・・・(ここに居るわ)」と予想通りの反応に・・・。階段が利用しにくいならとスタッフの方をお願いして違う通路から入場させていただくなど、時間がかかって間に合うのか心配していましたが、何とか着席できました。「あ～よかったあ～」

大変な熱気で、周囲の人はすぐにコートを脱ぎ、でもMさんの表情はまだ硬く、声をかけても絶対コートなど脱がないポーズ、後は見守ることとしました。コンサートが始まりました。Mさんはステージに釘付けか・・・そして・・・服も薄着になり、ラストステージでは両手を挙げて立ち上がりばかりに「きよしーいー!」と大声で叫び・・・こんなに盛り上がり・・・少し、胸が熱くなりました。

私は、ただただ、「来てよかった」「コンサート会場に入れてよかった」と。たくさん声を掛けて、多少強引にも引っ張って、席まで案内できて、Mさんの「身体ごと良かった」の反応に救われる思いがしました。

そして、皆さんの笑顔に出会って、スタッフも元気をいただきました。

今年もよろしくお願いいたします。

(ケアセンター大空 竹内)

活動いろいろ ～ひとつひとつ大切なメモリー～



まぶしいほどの光の中で(9月19日)



上手だね～!(10月17日)



似合うでしょう!(11月21日)



うわあ!すごいねえ!(2月27日)

～L.C.C.ういんぐニュース～

●L.C.C.ういんぐ今年度の取り組み

今年のL.C.C.ういんぐは、利用者向き合う中でサービス事業やサービスメニューの整理・調整・新規開拓を目標におき、サービスを利用される価値が生まれるよう取り組んでいく考えです。

その中でも特に、生活介護事業と地域活動支援センターのあり方や就労継続B型支援事業における作業工賃を上げる為の取り組みについて検討し、多くの方に喜んでいただけるような事業展開を目指します。

●ろうそく・アロマキャンドル作り

就労継続B型支援事業の作業内容の一つで、去年松江水燈路を機に実施しておりますろうそく作りは、去年以上に更に幅広く行って行き、地域のイベント等に御利用いただけるよう頑張ってお作りしていきたいと考えております。現状では、手作りアロマキャンドルも作っており、コツコツと販売もさせていただいている所です。



(250円/3種類 1袋)

●農園芸～今、畑は…?

今月は野菜の苗作りと畑の整備です。夏に備えて、きゅうり、トマト、かぼちゃの苗を作っています。ちょっと低めの支柱を組んで誇らしげな園芸班のメンバー。指導していただいている長野先生と一緒にパチリ!

「この豆はなあ、ツタンカーメンの豆といって、大正12年にツタンカーメンの墓から発見された豆だぞ。豆は緑だけど、

さやが赤紫の"のろいの血の色"だ。豆ご飯にして食べると旨い。熱を加えて時間が経つと小豆色になって赤飯みたいになあけん、皆がびっくりする。」「へえ～!!」

※「さんいん菜園日記」(中央新報社)にも長野先生の言葉があって、日本に来たのは昭和31年、中国地方に来たのは昭和58年」とのことです。

この、ツタンカーメンの豆は8月に出荷予定です。4月の出荷予定は「たけのこ」「菜の花」「あすっこ」です。完全無農薬のほか厨房残渣とEM菌を混ぜたぼかし肥料を使います。農産物は地元のJAで、EMぼかしはみしまやでも販売していますので、よろしくお願ひします。また、5月30日の運動会では苗の販売をします。お出かけください。

(L.C.C.ういんぐ管理者 神田弘治)



～フレンドニュース～

就労移行支援事業を始めて3年目に入りました。前年度は、2名の方が、就労が決まり(島根県非常勤嘱託員)フレンドを退所されましたが、就労後も、御本人、御家族、就労関係機関との協同により、暮らし全体をサポートし続けていきたいと思ひます。

今年度も、フレンドは「就職したい」という利用者ニーズに応える為に、就職したいと願う人の気持ちや意欲に寄り添う支援を心がけて行きます。「就職したい」と願う人をどのように訓練・支援していくのか、どうすれば働き続けられるのかを再認識していき、訓練作業(クリーニング)、委託業務、企業実

習を柱にして、就労関係機関との連携を図りながら就労支援をして行きます。

又、前年度初めて行なわれた、島根県障がい者クリーニング技能認定試験(初級)への受験者対応支援も行ないます。(前年度は、2名の方が受験され、皆さん合格しました。)

日本財団様より助成を頂き新しい整備された車両が入りました。クリーニング作業における、配達先移動の効率化、時間短縮、経費削減等が見込まれます。大切に使用していきたく思ひます。

(フレンド管理者 松浦和志)



～持田寮ニュース～

持田寮は、昨年4月から新事業体系に移行し1年が経ちました。日中事業「生活訓練事業」では、まず地域を知る事から初め、利用者の皆さんと散策し見学に歩いたり、近隣の店舗での買物実習などしてきました。他にも来客対応や掃除の仕方など生活に関わる様々なメニューで訓練をしてきましたが、その中でもホームの見学は関心の高いメニューでした。ホーム体験宿泊の機会を設け、経過も良く、めでたく1名の方がこの四月から実際に地域で生活する事が出来ました。また、ご本人さんはバスで通所する事になり、ひとまわり成長できた事で良い笑顔が出ています。

今後も利用者の皆さんのご希望を取り入れながら、地域生活に密着した取り組みを工夫していきたいと思っています。

(生活訓練事業担当 山崎雅子)



地域生活援助・介護事業所から

人が「普通」に暮らすってどういうことだと思いますか? 仕事に就いて、結婚して、子供を育てて、冷暖房のある家に住んで、ご近所付き合いをして、自家用車に乗って、旅行に行き、映画を観て、おいしいものを食べて幸福感に浸るといった類の豊かな生活のことでしょうか?

障がいのあるなしに関わらず、経済的に今の時代はそういう暮らしが崩れかけていますね。価値観も変わり、何が普通なのか分からなくなってきているように思ひます。

今まで街中で普通に一軒家に暮らすことを目指していたホームは近年、消防法、建築基準法等の法規制によって、耐震、耐火構造が求められ、誘導灯、防災カーテンに加え、該当の建物については避難路の防火壁等の修繕が必要となりました。ほとんど人件費で消えてしまう今の支援費では、改築に大金を掛けての工事を行うことはできません。そんな中、補助金をいただき、ケアホーム「かのん」の耐火構造修繕が、三月末に完了しました。「普通」の一軒家ではなくなったけれど安全な暮らしの場が一つ確保できたことは本当にうれしいことです。

また、障がいのある方が地域で生活するためには、地域の方との交流を増やし、時にはご迷惑も掛け、お叱りも受けながら、ご理解をいただけるようにならなければなりません。

国が目指している障がいの地域生活というのは残念ながら、入所施設から一歩出ることくらいでしかなく、受け皿としての環境を整えるためにはもっと豊かな財源と関係者の努力と地域の方々のご理解が欠かせません。どうか今後ともご協力の程よろしくお願ひいたします。



(管理者 遠所 三津江)



プロジェクト脳機能

自閉症の方は視覚優位と言われています。例えば話し言葉などよりも目で見たほうが理解しやすいということです。情報を視覚化し、利用者の方に「わかりやすさ」や「見通し」を感じ取っていただくことはとても大切なことと私たちは考えています。

しかしこれは自閉症の方のみに当てはまるかといえば、どうもそうではないようです。

例えば非常口の誘導灯や道路の標識は、文字と図案のセットによる視覚化がされています。

そういう意味では私たちメンバーも視覚化の恩恵を日常的に受けているといえるでしょう。

視覚化というのは障がいの軽重や特性のみならず有無をも問わないユニバーサルなものなのかもしれません。昨今は企

業の生産現場の間でも「見える化」という考え方が取り上げられています。

専門性を追い求めて狭いところに入っていくとしたら、出口はとても広がった(視覚化が必要なのは自閉傾向のある方だけではなかった)という気づきの一例でした。



■各事業所でも少しずつ視覚化を進めています。